



# 子供の貧困対策

## ～子供を取り巻く現状と国の取組について～

(抜粋)

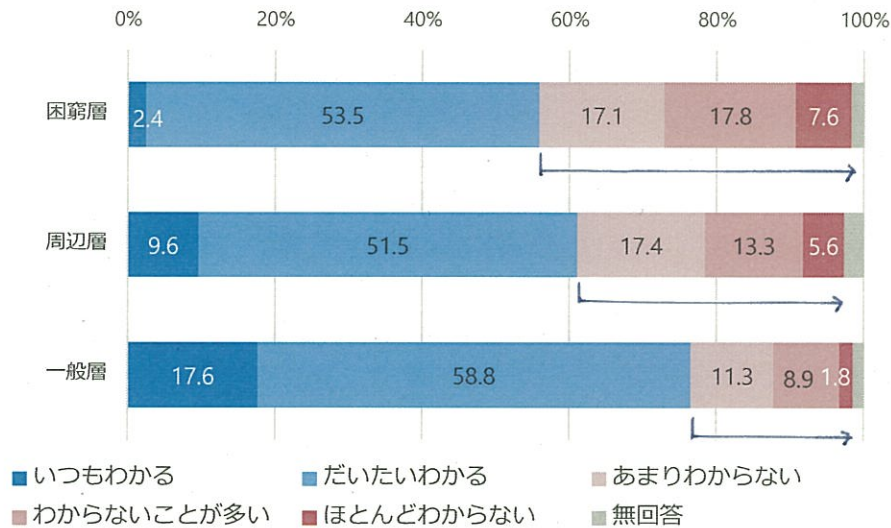
令和元年12月18日

内閣府 子どもの貧困対策担当

# 子供の貧困の特徴

- 低所得世帯やひとり親世帯の子供は、学習の理解度、進学意欲、自己肯定感、生活習慣の定着などの面で他の世帯より低い傾向。→**経済的困窮だけでなく様々な困難**を抱えやすい。
- 低所得世帯やひとり親世帯では、困ったときに頼れる相手がいない割合が、他の世帯より高い傾向。→**困難を抱えていても支援を求められず、社会的孤立**に陥りやすい。

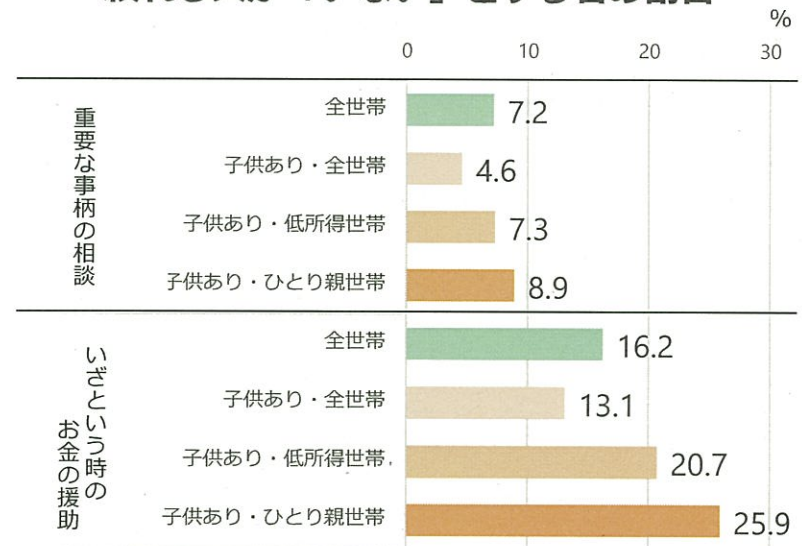
学校の授業の理解度（中学2年生）



(注) 「困窮層」は①低所得、②家計の逼迫、③子供の体験や所有物の欠如(3項目以上)のうち2つ以上に該当する世帯。「周辺層」はいずれか1つに該当する世帯。「一般層」はいずれにも該当しない世帯。

(出典) 埼玉県川越市 子どもの生活に関する実態調査報告書(平成31年3月)

頼れる人が「いない」とする者の割合



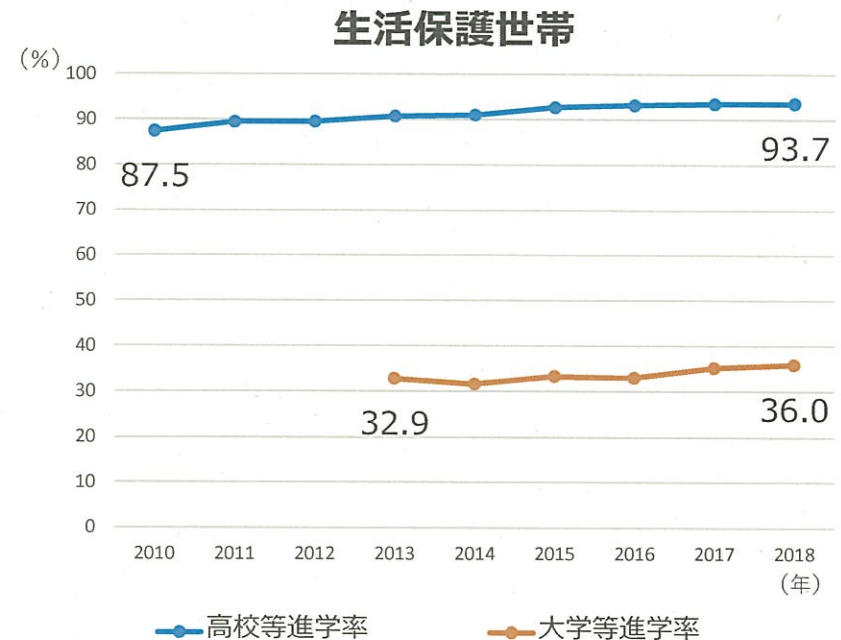
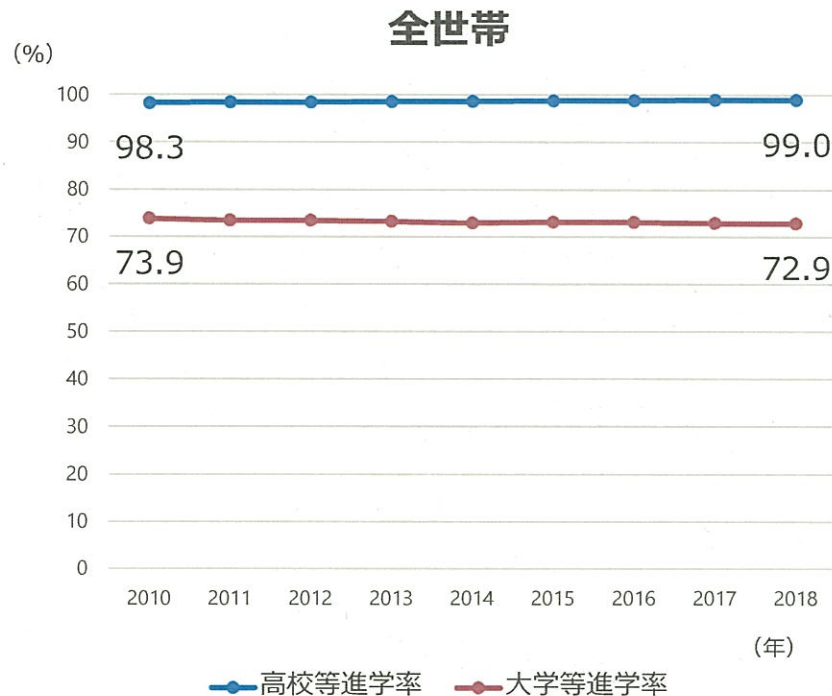
(注1) 18歳以上の世帯員のうち、それぞれの事柄について頼れる人が「いない」と答えた者の割合。ただし、「そのことでは人に頼らない」と回答した者は含まない。  
 (注2) 「低所得世帯」とは、等価世帯所得十分位階級のうち第1~3分位の世帯。

(出典) 国立社会保障・人口問題研究所「生活と支え合いに関する調査」(平成29年)

# 子供の高校・大学等進学率

➤ 生活保護世帯の子供の高校・大学等進学率は、やや改善しているものの、全世帯より低い水準にとどまっている。

## 高校等進学率・大学等進学率の推移



(出典) 全世帯については、文部科学省「学校基本調査」を基に算出。

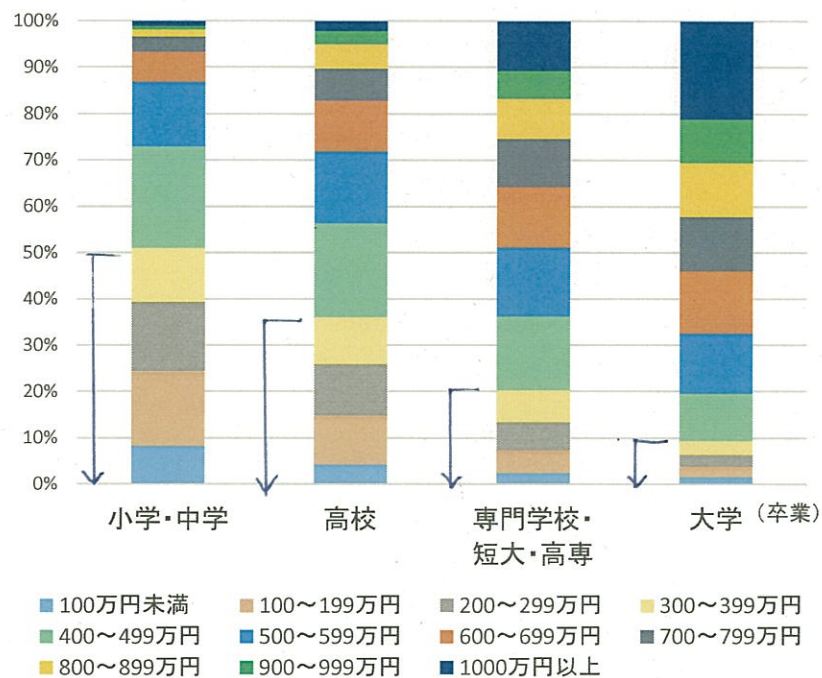
生活保護世帯については、厚生労働省社会・援護局保護課調べ

(注) 全世帯と生活保護世帯の大学等進学率の算出方法は異なることに注意が必要。

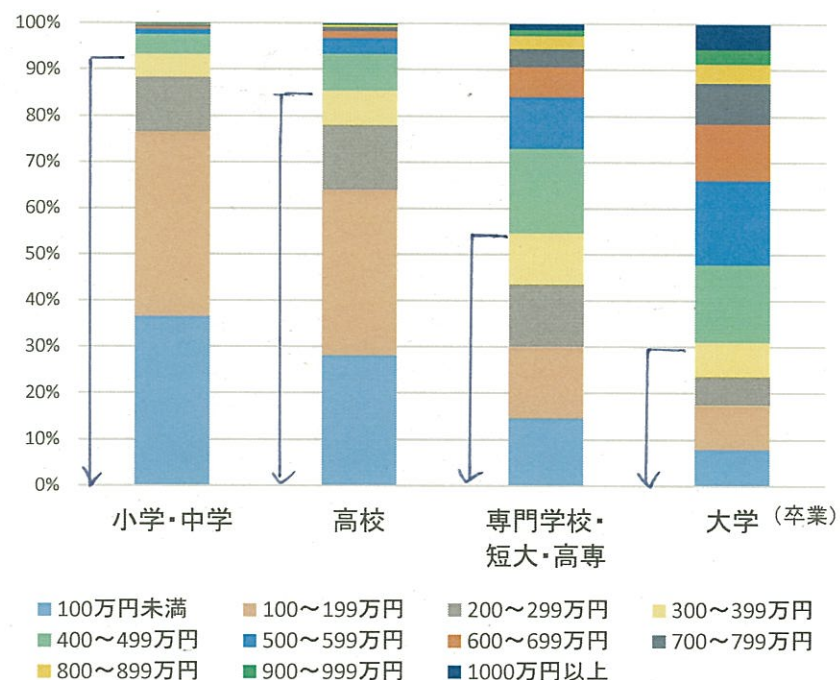
# 教育別にみた有業者の年収分布

➤ 学歴が高くなるほど、高所得の仕事に就いている割合が高くなる。

教育別 年間収入額（男性・20～64歳・有業者）



教育別 年間収入額（女性・20～64歳・有業者）



（出典）総務省「就業構造基本調査」（平成29年）より内閣府子供の貧困対策推進室にて作成